

<耳鼻咽喉科・聴覚センター>

一般（教育）目標

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門領域における医療、福祉に関する問題について、医の倫理にもとづき専門医としての診療を適切に実施するとともに、学校保健や公衆衛生に関する問題に対処する基本的な能力を養うことを目的とする

（具体的）行動目標

(1) 基本姿勢

- (ア) 病態の把握ができる病歴聴取を心がける。病態の理解を深める
- (イ) 医療安全研修会に出席し、安全管理の重要性を理解し、医療事故および事故後の対処、院内感染の対策ができる
- (ウ) チーム医療を理解し、看護師その他の医療従事者と円滑な連携を保つことができる
- (エ) 医療関係法規に基づいた適切な対応ができる（診断書、死亡診断書、各種証明書等）

(2) 診察法・検査・手技

- (ア) 耳鼻咽喉科疾患の病態を評価するための検査計画が行える
- (イ) 正確かつ詳細な問診を行い、結果を記載できる
- (ウ) 全身、局所の診察を行い、所見を記載できる
- (エ) 必要な一般検査を選択し、結果を判定できる
- (オ) 上級医への報告、連絡、当直医への申し送り、退院時の外来あるいは関連医療機関への申し送りを確実に行うことができる
- (カ) 入院診療録をPOMRに基づき正確に記載し、その経過をSOAPの形式で記載することができる
- (キ) 患者、家族に対し納得のできる説明を行い、インフォームド・コンセントが得られる。インフォームド・コンセントのもと、患者、家族への適切な指示、指導ができる

(3) 症状・病態への対応

- (ア) 患者の病態の考察と分析を行い、適切な治療計画を立てることができる
- (イ) 同科あるいは他科の医師との連携の必要性を判断し、実行できる
- (ウ) 必要に応じて症例の提示、報告ができる

学習方略(1)

- (1) 上級医の指導のもとで入院患者の診療を行う。受け持ち患者数は 10-15 人程度とする
- (2) 週 1 回の部長初診外来に同席し、外来診療のあるべき方法を学ぶ。週 1 回の部長回診に参加し、症例提示を行う
- (3) 聴覚センターカンファレンスで難聴者治療、リハビリの実際を学ぶ
- (4) 上級医の指導により、耳鼻咽喉科疾患に関するなどの特殊検査を自ら計画し実施する

学習方略(2) 勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 手術前後カンファレンスで、手術適応とその手技を学ぶ
- (2) 聴覚センターカンファレンスで、補聴器、人工中耳、人工内耳の適応決定に至る過程、現在の評価方法を学ぶ
- (3) 上級医の指導により開催される勉強会に出席する（平均週一回程度）
- (4) 興味を待った症例や病態に関して、上級医の指導のもとに自己学習した成果をカンファレンスで発表

週間予定

	月	火	水	木	金
午前	部長診察	手術	手術	手術	
午後	入院患者診察	チャート回診 総回診	手術	手術	
夜間		手術前後 カンファレンス		術前 カンファレンス 聴覚センター カンファレンス	(勉強会)

EV 評価

PG-EPOC による評価方法（研修医⇔指導医）

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC 評価システムに入力すること